

## トマトは品種によって白ぶくれ症被害果が少ないものがある

### 【概要】

本県の夏秋栽培トマトでは、ヒラズハナアザミウマやミカンキイロアザミウマの飛び込み増加に伴い、果実の白ぶくれ症の発生が増加します。現地トマトほ場における調査の中で、品種によって本症状の被害果率に差があると考えられたことから、県内夏秋トマト栽培の主要3品種を用いて、本症状の被害果率に品種間で差があるか調査し、品種の選定が防除対策の一つとなることを明らかにしました。

- 1 ヒラズハナアザミウマによるトマト果実の白ぶくれ症被害果率には品種間差異があります(図1)。
- 2 夏秋栽培における県内主要3品種のうち、「りんか409」は白ぶくれ症被害果率が最も低いです(図1)。

### 【試験データ等】

試験1 (ネット有、天敵製剤併用)

試験2 (ネット無、化学的防除主体)

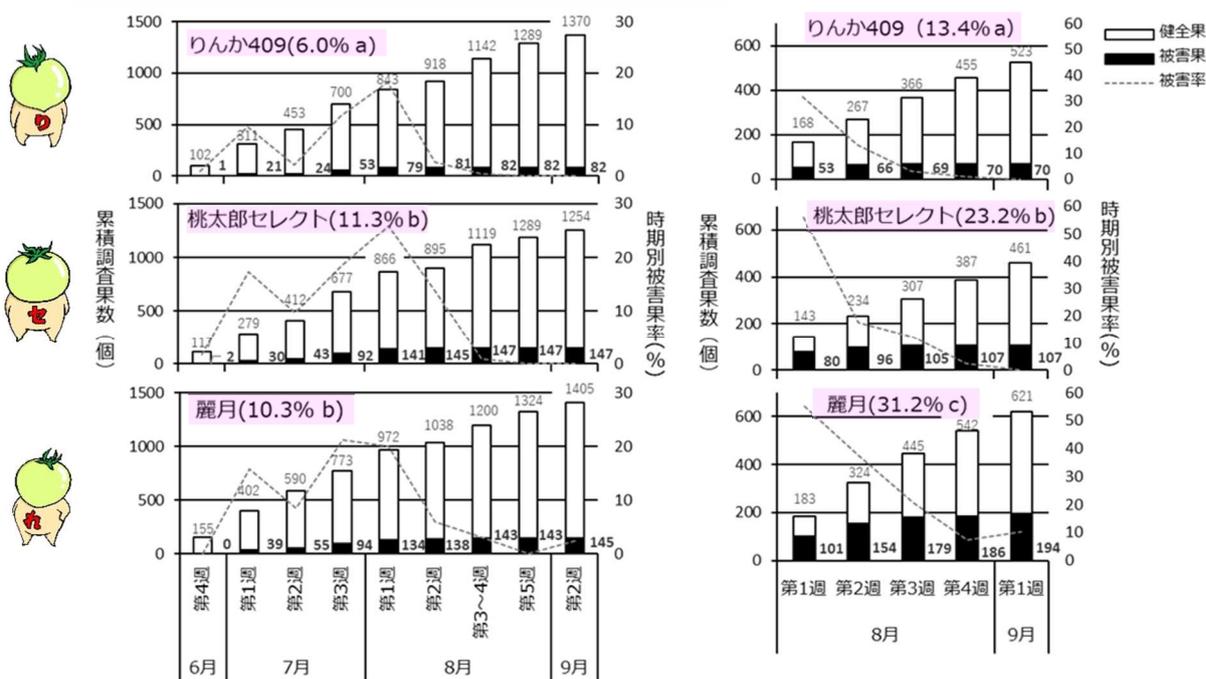


図1 県内主要3品種におけるトマト果実の白ぶくれ症状の発生推移と被害果率

※ ( ) 内の割合は被害果率(累積)を示す。異なるアルファベットで示された被害果率には同一試験内の品種間で有意差があることを示す。

( $\chi^2$ 検定後 Holm法、 $p < 0.05$ )。グラフ上の数字は累計調査果数、右の数字は累計被害果数を示す。

試験1 補足：調査期間6/17～9/21のうち、白ぶくれ症が発生していた6月第4週～9月第2週までのデータを用いて被害率を求めた。6～9月までにアザミウマ類に適用のある薬剤を2回使用。

試験2 補足：調査期間8/3～9/20のうち、白ぶくれ症が発生していた8月第1週～9月第1週までのデータを用いて被害率を求めた。7～9月までにアザミウマ類に適用のある薬剤を7回使用。

【令和6年度成果】夏秋栽培トマトにおけるヒラズハナアザミウマによる果実の白ぶくれ症被害果率の品種間差異 (R6-指-21)